

令和7年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	教育委員会事務局
日 時	令和7年(2025年)4月22日(火) 14:50~15:55
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、東副知事、岸本副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 教育長、教育次長、教育次長、教育総務課長、教育ICT化推進室長、教職員課長、高校教育課長、魅力ある高校づくり推進室長、幼小中教育課長、児童生徒室長、特別支援教育課長、人権教育課長、生涯学習課長、保健体育課長、全国高校総体推進室長、図書館長

発言者	発言概要
知事	教育委員会は緊張感がすごい。教育に携わる皆さんが固くならず、もっと自由にのびのびと働けるような職場環境にしてほしい。幹部の皆さんのリーダーシップに期待する。
総務部長	今年度、県有施設の老朽化対策にかかる県公共施設等マネジメント基本方針を改定しようとしており、教育委員会とも相談しながら進めていきたい。 県立高校の将来を見据えた検討については、県だけではなく、地域のあり方にも関わってくる話なので慎重な検討が必要であることは承知している。その検討に当たって、今年度はどのようなスケジュール感を持っているか。
魅力ある高校づくり推進室長	まずは各学校に通っている生徒や保護者の意見を把握することから始めたい。また、各学校を支えている地域のみなさんの思いや、市町がその地域をどうしていきたいのかということも大事な観点であるので、聞いていきたい。知事部局とも一緒に検討していかないといけないと考えている。県として県立高等学校のあり方見直しに取り組んでいることや見直しに取り組まなければならない状況になっていることについて、県民のみなさんに伝えながら進めていきたい。
知事	今後子どもが減っていく中で、いまある県立高校を全部残してリニューアルするのはおそらく無理であり、地域における県立高校の役割は何か、少人数学級にどう移行していくのか、という論点も踏まえて、どういう方針で、どういうスケジュールで、何をするのかについて考えていかないといけない。どのようなスケジュールで進めていくか、まずは議論しよう。
知事公室長	教育長の思いを聞かせてもらったが、「子どもを主語に考えよう」とか「アップデート」とか言い過ぎると、教員の負担にならないだろうか。まずは体制強化が必要だが、人口減少社会にあってどう先生の受験者数を増やすのか。働きがいや魅力を高める具体的な施策が必要。例えばSCやSSWについても、現場の先生方からは不足しているという声を聞く。
児童生徒室長	SCやSSWについては、国も毎年予算を増額しようとしているが、全国の自治体から増員要求が出ており、パンクしてしまっている。また人材育成も大事であり、成り手が不足する中で自治体間で取り合いをしている状況。
教育長	SCやSSWは自治体間の取り合いなので、処遇も大事な論点である。また「子どもを主語に」という考えは、学校現場の先生方には理解いただけていると認識。子どもの笑顔を広げるためには教員が笑顔にならないといけない。県教委がこうした視点に立っていると発信することは必要と考えている。
総合企画部長	ICTの更なる活用は、学校現場も教委事務局でも必要。人がやらなくてもよい業務を切り分けて、機械化を進め、効率化とミスの防止を図る。DX推進課にも相談してほしい。
教職員課長	学校では採点支援システムを導入しており、テストの自動採点や成績処理が迅速かつ正確にでき、採点業務に係る時間削減効果があると好評。これを更に進め、生徒への答案返却も個人端末に送信するやり方を考えている。
高校教育課長	高校の新入試でWEB出願を取り入れる。従来のように、中学校の先生が書類を持って高校に提出しに行く事務も不要になり、可否結果も生徒本人に伝わるので発表に係るミスも減る。このシステム構築に全力で取り組んでいる。
総合企画部長	不登校の子どもがメタバース上でやりとりできる場を提供する、という取組を聞いたことがある。

教育長	昨年度に検討し、実験までしてみたがあまり良い反応は得られなかった。また考えてみたい。先日も鹿児島市の講師を呼んで教育DXについて講演をしていただいた。様々な取組を進められており、学ばせてもらった。
知事	生まれたときからデジタルがある世代の子どもと、大人になってからデジタルを進めた我々では、全然違うのではないかと。子どもたちから先生が教えてもらったらい。
幼小中教育課長	良いやり方を子どもから聴き、皆に広げるのも教員の役割である。一方で、対面でしか伝わらないこともある。教員同士でも、対面で話し合うと子どもの見方や指導法で気づきがある。一緒に議論するとか、校内研修をするとか、そういう話し合いの時間を大事にしたい。
総合企画部長	先生が児童生徒の人権侵害をしたという報道があった。資質向上という面で、教員がまず人権意識を高くもたないといけない。県内でも外国人住民やその家族が増加しており、色々な子どもと一緒に学校で過ごすことになるので。
人権教育課長	人権向上シートを作成し、教員が自らを振り返ることができるように呼びかけている。教員の人権感覚のアップデートに努めてまいる。
岸本副知事	働き方改革計画で掲げる目標数値は高校だけか、小中学校も入っているのか。
教職員課長	小中学校も含まれており、現在の働き方改革取組計画では時間外在校時間80時間超の者をゼロにすること、月平均時間についても45時間以内にすることが目標値である。昨年度の教職調整額の引き上げに係る議論の中で、時間外在校等時間に関する目標が新たに示されたので、次期計画に反映させていく。
岸本副知事	高校授業料無償化は県内の私立学校にも影響が出てくる。高校のあり方を考える際には、私立学校とも意見交換をしてはどうか。
魅力ある高校づくり推進室長	県内私立学校との意見交換は行う。更には京都市など県外に所在する私立学校にも話を聞いていきたい。
東副知事	教職員のメンタルヘルスについて、長時間労働者への面接指導を目標にしているが、メンタルヘルス悪化の原因はやはり長時間労働なのか。
教職員課長	長時間労働は大きな要因。
東副知事	何か他にもあるのか、保護者への対応で疲弊するとか。また長時間労働の要因分析も重要である。
児童生徒室長	生徒指導に関して言うと、例えば保護者対応についても、難しい事案については終わりがなく、教員が疲弊してしまっていると聞く。いじめについても、重大事態となる件数が増えており、やはり対応に時間がかかるので、時間外勤務も長くなるし、精神的にもしんどくなっている。
知事	面接指導を高めるという目標でよいのか、課題解決につながっているか。目指していることと目標設定の整合をとろう。メンタルヘルスはとても大事なので、チームで支え合うことを考えてほしい。
知事	何点が申し上げる。まず、県民から付託された知事の権限は謙虚に行使する考えではあるが、教育委員会が所掌する業務は知事として重視している政策なので、関与もするし、最大限の協力をする。今後是非、いろんなやり取りをお願いしたい。
知事	甲西の夜間学校の式典に参加して、一人ひとりが学びを通じて人生を輝かせることの大事さを持った。子どもの学びという点では「教えるよりも能力を引き出す」という方針に共感する。大事なのは、「分からない」と言える学校にしようということ。「助けて」と言える社会をつくろう。「わかった！できた！」も大事だが、「分からない」と声をあげられる学校を皆さんと一緒につくりたい。
知事	他部局の話だが、貧困対策、そして戦後80年というテーマに取り組んでいる。平和をどう考えていくか、どうやって戦争が起こらない国にしていけるか、ということについて、教委としても考えてもらいたい。例えば修学旅行でどう学ぶのか、どのような学習を進めていくのか。

知事	学ぶ力向上プランにも期待しているが、間違っても「学力テスト対策」にはしない。平均点に汲々としていない。今年の問題も解いてみたが嫌になるような問題だった。ただ「分からないから止めた」ではなく、与えられた問題をどうやったら解けるか積極的に取り組もう、と考える意味はあるかな。何問解けたとか解けないということに意味はない。毎年、結果に対して色々言われるが、それで動じる教育行政ではいけない。何年か前には学力テスト対策に汲々としていたこともあったが、絶対にそうならないように。
知事	フローティングスクールについて、もっと滋賀県以外の子どもに、日本以外にも開かれたものに進化させられないか、考えていきたい。
知事	学校の先生の働き方改革については、目指す姿とやることがずれないように。また優秀な人材に来てほしいと言うときに、受験者を増やせばよいという発想に疑問を呈しておく。受験者が多ければ優秀な人が含まれる割合も高くなるだろうが、多くの人が受けるということは多くの人が落ちるということ。これほど上から目線の思想でよいのか、言い方ややり方を変えないか。
知事	人権教育に関して自尊感情を育む取組が書かれているが、もう少し掘り下げられないか。子ども若者部でも同じような話をしたが、確か国の調査で、自然体験の多さが自尊感情に影響するというエビデンスがある。この点、滋賀県は他の都道府県よりできることがあると思うので追求しよう。
知事	新しい入学者選抜の仕方が始まるが、進路指導についても進化させよう。現状どうなっていて、今後どうしなければいけないのか。従来の高校選択や進路選択だけでなく、高専もできるし、不登校生徒も増えている。どうあるべきか、考えていきたい。
知事	生涯学習は社会教育につながり、元気高齢者・アクティブシニアにつながる。この観点でどんな取組ができるか、健康医療福祉部と一緒に考えてほしい。
知事	こども としょかんは私が3期目でこだわっている政策。学校図書館サポーター養成講座の実施に感謝しつつ、市町立学校に学校司書を「いつまでに・どれだけ」配置できるのか、議論しよう。県立図書館についても、市町立図書館と連携して滋賀県の図書館力を上げていこう。県立図書館のことだけを考える図書館行政にならないように。
知事	「滋賀のめざす特別支援教育ビジョン」は、10年前に相当議論して策定した。どこに進んだら良いのか分からない、という先生方にとっての「北極星」にしようと言って作った。この10年間を検証しつつ、特別な支援がいる人たちに寄り添う教育は大事にしたいが、別々に生きていくような社会づくりにつながる特別支援教育とならないように。ここは滋賀県らしさを大切に作っていきたい。
知事	最後にもう一度、先生方を自由に、枠にはまらないように対応してほしいとお願いしておく。
教育長	「自由に」という意見については、教育委員会はカチッとし過ぎている側面はあるかもしれない。是非一度、知事と気軽にお話しできる場を設けられたらと思う。